

## 1. 個人山行 西穂高

4/15,16 メンバー：古瀬、大谷

4/15 晴れ 沢渡—上高地—2000m地点

雪の上高地を見るのは久しぶりだが、霞みがかった空やオレンジ色の木々の芽吹きはいかにも春だ。二人は同省もなく眠かったので、取り付きで休んでいると思わず昼寝をしてしまう。どのくらい時間が経ったか、はっ、やばいと気づいてふらふらと登りだす。雪が重く、膝まであるラッセルが辛い。不覚にも山荘までたどり着けずにテントを出してさっさと寝てしまった。

4/16 曇りのち雨 6:30 西穂山荘 8:00—独標—西穂往復—16:00 上高地

山荘に荷物をデポして出発。視界は悪いが風は弱い。独標でザイルを張っているパーティーの脇を簡単に通過。西穂までは同じような幾つかの小ピークを丁寧にたどる。ほとんど雪が着いているが、雪庇らしい雪庇はない。行きで2度、帰りで一度、いずれも下りでザイルを出す。(帰りで大谷がスリップシテンションがかかる)。山頂は狭く雪に埋もれてしかもホワイトアウトでさっさと帰る。上高地からは軽トラックに乗せてもらって新島々まで。ザイルを出す判断やアイゼンのトレーニング XXXX 山行だった。

(文責：古瀬)

## 2. 個人山行 北又谷

8/7-9

メンバー：古瀬、古田

朝日の岩井俣を計画していたが、前線が東北地方に停滞して豪雨という情報だったので、古田お薦めの北又に泣く泣く転進。古田にとっては2年ぶりのリターンマッチ。

8/7 曇りのち晴れ 泊→小川温泉 6:30→越道峠 7:40→北又谷本流 8:30→15:00  
テン場荒れた沢を下降して魚止の滝手前の本流に出る。とたんに晴れて、嬉しくなって早速竿を出す。すると途端に尺ものが掛かって、「いつの間にこんなに腕が上がったのだろう」と興奮したが、ビギナーズラックもここまでが限界らしく、今度はバラされてしまい、それ以降はかすりもしなかった。魚止の滝壺では淡緑の瀬に尺以上のやつらがしゅるしゅる泳いでいるのが見え阿多が、こちらのなふあすミミズには見向きもしない。やはり、ここの岩魚は基本的にはスレているのかと認識を改める。沢の大きさには緊張

させられるが、水が温かいので幾分かは気が楽になる。何より青空の下、大きな白い岩と緑の中で大岩魚を追いかけるのに夢中になると、時がたつのを忘れてしまう。この日は水上谷ノ手前まで行って左岸でビバーク。又右衛門滝の巻きではかなり上に上がってしまい苦勞する。ただしこの日釣ったイワナは大きくはあったが味の方はおおざっぱで、脂がのっていない。やはり岩魚は秋に限るなと思う。

8/8 晴れ時々曇り 5:30 発 →13:30 黒岩沢出合い→15:00 テン場

泳いだり、へつったり。水量は長持淵でも胸まででさほど多くない。7月の集中豪雨でスノーブリッジは流されてしまったのか、残骸が1カ所にのこるのみだった。順調に黒岩沢出合いに、ソーメンランチとする。黒岩沢の中ほどに30mくらいの垂直の岩壁があり、(北又谷奥壁と勝手に命名)、その真下で泊る。壁を真っ赤に染める夕焼けを眺めながらたき火ができる絶好のテン場。

8/9 快晴 4:30 発→6:10 稜線→15:00 親不知

オコジョを追いかけていたりしているうちに、アヤメやコバイケソウの咲く稜線に出て遡行終了。ただ、7月の豪雨のため大糸線の南小谷以北が不通となりここから親不知まで歩かなければならず、暑さと水不足もあってバテてしまった。最後は日本海に飛び込み、ほてった体を十分に冷やした。(文責:古瀬)

### 3. 個人山行 上信:清津川釜川右俣 10/7-8 メンバー:古瀬、田形 OB

実は9月中に1度トライしているのだが、その時は台風のために秋山郷観光に切り替えてしまった。今期最後のチャンスにリターンマッチをかけた。

10/7 曇り 越後田沢→導水路入口 8:20→釜川本流 9:30→三ツ釜 13:00→  
16:00 ビバーク

取り付きを間違え下の方から遡行を開始しようとするが、沢に降りるため懸垂をしようとしたときになって、田形が「ハーネス忘れた!」と叫ぶのでいきなり戦意喪失させられる。どうしようかとしばし悩んだ末、二度目のトライアル、最後のチャンスというこ

ともあって、強行を決意する。切れ込みは浅いながらも磨き脱がれたゴルジュが延々と続く。闊達な沢ではないが、微妙に細工された小品といった趣。微妙なへつりと徒渉を繰り返すがずっとノーザイルで行けて気持ちいい。天気は薄日の差す曇り、寒くはないが、もちろん泳ぐ気にはならず、巧みにへつりで切り抜けて行く。しかし水量は多いようで、かといって大高巻きをする気もせず、ついに 20m トロで泳ぐはめになる。そして三ツ釜直前でも 4 5 度のつるつるスラブをトラバースできず、滑り台を落ちるようにトロにはまって再び泳ぐ。水から上がると体中のエネルギーが奪われたような感じで、続くスラブ登りがえらくしんどく、三ツ釜を眺める余裕もない。予想以上に手ごわいと感じながら、今日は清水沢まで行けず、枝沢と本流の間の左岸高台でビバーク。

10/8 曇り 6:00 清水沢出合い 8:30—XXXX→越後湯沢

今日の難敵は高巻き。清水沢出合いでは林道が眼の高さに見えるほどにおいあげられたが、ルンゼを下降して無事復帰。トロで田形が朝一番の泳ぎを披露した後、突然困難なゴルジュに出くわし右から巻くが、これがボロボロの泥壁。何度かの悪い巻きとへつりをクリアして奥の二股に達すると、ようやく紅葉の中に緩やかなナメ滝が連続するようになる。苦味のある野いちごを口に含みつつ緩やかに遡って霧ノ塔のササ原に出る。稜線ではなんと新雪が少しあって、ガク然とする。泥道にてこずっている登山者を尻目に、タビをぺたぺた言わせて颯爽と駆け下り、ヒッチハイクで湯沢へ。(文責：古瀬)

#### 4. 冬山偵察 荒川三山 10/21-23 メンバー：瀏沢、宗像

10/21 快晴 5:00 起床、8:15 大河原発→10:30 ゲート→11:05 橋→高山の滝 12:20→12:50 キタ沢の出合い→広河原小屋 13:50

前日夜行バスで駒ヶ根へ。電車、バスと乗り換え、大河原から歩き始める。途中、山道でもないのに道を間違え、採石場に迷い込み慌てて引き返す。単調な車道を歩いていたら、移動スーパーのおちゃんが親切にも向うから声をかけて、車に乗ってくれた。こんな幸運は二度とあるまいと感激。その後もヒッチハイクに成功し、それほど苦勞せずにゲートに着く。そこから歩き始め、しばらくして橋が見えてくる。橋からの小渋川の遡行は冷たい流れを十数回渡渉を繰り返し、高山の滝にしばし心やすめる。広河原小屋への入り口のところで

再び読図を間違え、荒川を暫く遡った後引き返し、淵沢の読図力に少々不安を覚える。

7/22 晴れのち曇り

4 : 30 起床 5 : 45 広河原小屋発→8 : 45 船窪→9 : 40 大聖寺平 9 : 50→10 : 30  
荒川小屋上コル 10 : 45→11 : 55 前岳頂上 12 : 15→12 : 25 中岳頂上→12 : 40  
悪沢岳下コル→13 : 10 悪沢岳 13 : 25